

1. 科目名 (単位数)	生涯学習支援論 (4 単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	栗山 究		
4. 授業形態	講義、演習 (調査研究、グループワーク含む)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は、社会教育主事任用資格および社会教育士の称号取得のための必修科目の一つであり、他の社会教育に関する科目の基礎編に位置づけられる。春学期に開講される「生涯学習概論」(2年次以降)を受け、社会教育主事や社会教育士に期待される学習支援の理論・方法を発展的に学ぶため秋学期に開設する。そのため、受講に際しては「生涯学習概論」を修得済であることが望ましい。		
7. 講義概要	生涯教育・生涯学習は、時代の変革期における一つの挑戦であり、人類の新たな教育・学習を展望したものといえる。本科目では、「生涯学習」の基本的な概念を習得し、とりわけ学習者の特性について把握した後、学習者の主体的な学びの支援方法について解説するとともに成人教育の意義とあり方について理解するよう授業をおこなう。 生涯学習では、学習者が主体的、自律的に学習活動に関わり、学習目標、学習方法を自己決定していく自己主導的学習を促すことが求められる。つまり、参加型学習は一人ひとりの参加意識や学習動機が大切であり、特に施設や学習環境など条件を整備し、少しでも学習目的に近づけるよう支援者の適切な助言を必要とする。専門的教育職員として継続的な学習プログラムの提供に関する基礎的な知識も習得できるように授業を展開していく。		
8. 学習目標	生涯学習に参加する学習者には、個人が学びへの関心を高めることもさることながら、ボランティア活動や地域の趣味、教養に関わる団体等の活動に参加し、自ら学ぶとともに他者の学習を支援するなど地域貢献できる人材として活躍することが期待されている。学習支援は、そうした人材養成に必要な基本的知識や行動力を実践に生かせるよう目標をたて、着実に学習成果があがるよう導いていく手法である。単にノウハウや手段を学ぶだけでなく、受講生一人ひとりが計画的な目標設定のもとキャリア形成に努めていただきたい。 本授業を通じて受講生に求める目標は次の三点である。①生涯学習の原点が理解できるようになること。②参加・体験型の学習手法が実践的に理解できるようになること。③成人教育の理念・方法を身につけること。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	本授業では、演習課題①現代の地域課題解決 (持続可能な社会づくり) に向けて実際に取り組んでいる地域の社会教育実践を背景に各受講生が公民館主事として考案した学習講座のデザイン (成人向け学習講座の企画書提出とその学習方法の体験)、演習課題②生涯学習支援事例の読み合わせが課題となる。初回の授業で提示する授業展開の建付けをしっかりと理解し、各種課題は計画的に仕上げていってほしい。 いずれも受講者自身がレジメを作成・報告し、受講者相互に話し合いながら共同検討を行っていくため、それぞれの課題に向けては、各自の興味や問題関心に即して新聞記事・文献・実践記録を収集・整理する時間、生涯学習支援の現場に実際に参加・体験する時間が必要となる。また、クラス内での話しあい学習の内容を相互に理解しあっていくことが求められる。授業内容や共同検討で気づいたことを自分なりにふりかえる時間を自覚的につくり、配布資料は各自でファイルなどを用意してまとめておき、予習と復習に十分に活かしてほしい。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】各回授業テーマに応じて、担当教員が作成・編集した資料や学習記録を配布する。 【参考書】①『月刊社会教育』国土社・旬報社、1957年～毎月刊行。②高井正・中村香編『生涯学習支援のデザイン』玉川大学出版部、2019年。③小池茂子・本庄陽子・大木真徳編『生涯学習支援の基礎』学文社、2022年。④朝岡幸彦・井口啓太郎・谷口郁子・飯塚哲子編『講座づくりのコツとワザー生涯学習デザインガイド』国土社、2013年。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 本科目に対する基本的な知識が習得できたかどうか。 2. 他のメンバーと共同してグループワークに取り組むことができたか。 3. 課題を認識しつつ、自分の考えをもつことかできたかどうか。 ○評定の方法 1. 授業への取り組み姿勢、グループワークへの参加度、協力度 総合点の30% 2. 授業内での課題提出 (発表資料の作成、コメント用紙の提出) 総合点の20% 3. 期末試験 (期末レポートを含む) 総合点の50%		
12. 受講生へのメッセージ	(1) 本授業は、主として演習形式で展開するので、授業内容の理解は、毎回の授業 (演習) に連続して出席することでより深まります。初回の授業で確認する授業展開の建付けをしっかりと理解し、各種課題は計画的に仕上げ、正当な理由なしの欠席や遅刻は控え、自ら授業をつくっていく心づもりで、主体的・積極的に授業に臨んでください。 (2) 本授業の履修に際しては、生涯学習概論 (2年次前期) で学修した専門的知見が必要となります。当該授業を履修していない、あるいは履修済の受講生が当該知見を獲得していないと判断される場合は、本授業の前半部分で、その程度に応じて同科目で学修する授業内容の復習を行います。 (3) 受講者相互の問題意識や興味関心の程度に応じ、さまざまな現場を紹介していく機会も適時、設けたいと考えています。授業内の共同検討を踏まえ、可能な限り自分のくらす地域をはじめ、社会で展開される各種さまざまな講座や学びあいの現場に興味関心に向け、学習支援者という視点から、そこで学びあう様々な住民と出会い、そこでの学習者や学習者の学習を支える人たちとともに学習を深めていく機会をつくってみてください。自分なりに学んだ内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は、積極的に応援していきたいと思えます。		
13. オフィスアワー	個別での質問や相談等は、各回授業開始前・終了後の時間に対応します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 社会教育主事、社会教育士 (資格・仕事・人事・現状)	事前学習	社会教育主事・社会教育士とはどのような資格・称号であるかを調べて臨む。
		事後学習	社会教育主事・社会教育士の置かれている現状や課題そして可能性を理解する。

第2回	成人の学びの特徴	事前学習	生涯学習概論で学習した「生涯学習」概念を復習してくる。
		事後学習	授業内で確認した基本用語の概念を自らのものとして捉えられるようにする。
第3回	ペダゴジーとアンドラゴジー	事前学習	事前指定した文献資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	授業内で確認した専門用語の概念を自らのものとして捉えられるようにする。
第4回	生涯学習概念の成立と日本の社会教育実践	事前学習	生涯学習概論で学修した「学校教育」「社会教育」概念の相違と関連を復習してくる。
		事後学習	授業内で確認した専門用語の概念を自らのものとして捉えられるようにする。
第5回	日本における社会教育の概念	事前学習	事前指定した文献資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	授業内で確認した専門用語の概念を自らのものとして捉えられるようにする。
第6回	生涯学習に関わる国際的議論	事前学習	生涯学習概論で学修した「学習権」概念を復習してくる。
		事後学習	授業内で確認した専門用語の概念を自らのものとして捉えられるようにする。
第7回	生涯学習という理念と学習権思想	事前学習	事前指定した文献資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	授業内で確認した専門用語の概念を自らのものとして捉えられるようにする。
第8回	学校教育・社会教育と生涯学習社会	事前学習	生涯学習概論で学修した「生涯学習社会」概念を復習してくる。
		事後学習	授業内で確認した専門用語の概念を自らのものとして捉えられるようにする。
第9回	生涯学習支援とその社会的背景	事前学習	事前指定した文献資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材を振り返り「生涯学習支援」の理念とその社会的背景を説明できるようにする。
第10回	生涯学習社会の実現に向けての諸課題	事前学習	事前指定した文献資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	演習課題①に向けて「持続可能な社会づくり」に向けての自らの関心を整理し、中間レポートにまとめる。
第11回	生涯学習支援の事例に学ぶ①：社会とつながる主体的な学び合いの支援	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	紹介した実践事例を振り返り、自分の言葉で説明できるようにし、様々な場面での生涯学習支援の方法に応用できるようにする。
第12回	生涯学習支援の事例に学ぶ②：基礎教育の課題と展望	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	紹介した実践事例を振り返り、自分の言葉で説明できるようにし、様々な場面での生涯学習支援の方法に応用できるようにする。
第13回	生涯学習支援の事例に学ぶ③：ユースワークと生涯学習	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	紹介した実践事例を振り返り、自分の言葉で説明できるようにし、様々な場面での生涯学習支援の方法に応用できるようにする。
第14回	生涯学習支援の事例に学ぶ④：青少年センターでの居場所づくり	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	紹介した実践事例を振り返り、自分の言葉で説明できるようにし、様々な場面での生涯学習支援の方法に応用できるようにする。
第15回	生涯学習支援の事例に学ぶ⑤：在住外国人と生涯学習支援	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	紹介した実践事例を振り返り、自分の言葉で説明できるようにし、様々な場面での生涯学習支援の方法に応用できるようにする。
第16回	現在の国が目指す生涯学習関連施策の展望と課題	事前学習	事前指定した文献資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	教材を振り返り「生涯学習政策」の方向やその社会的背景を説明できるようにする。

第17回	中間発表：各自の捉える現代的学習の課題報告	事前学習	演習課題①を中間レポートとして提出・発表できるように準備して臨む。
		事後学習	授業内での発表と意見交換をもとに、演習課題①の準備を進めていく。
第18回	学習プログラムの企画と展開	事前学習	事前指定した文献資料を読み、わからない言葉は何かなど質問を用意して臨む。
		事後学習	授業内での学習内容および発表と意見交換をもとに、演習課題①の準備を進める。
第19回	学習講座のデザイン① 講座づくりのプロセスと課題	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	授業内での学習内容および発表と意見交換をもとに、演習課題①の準備を進める。
第20回	学習講座のデザイン② 学習テーマ設定の心得	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	授業内での学習内容および発表と意見交換をもとに、演習課題①の準備を進める。
第21回	学習講座のデザイン③ 講座の準備と運営のポイント	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	授業内での学習内容および発表と意見交換をもとに、演習課題①の準備を進める。
第22回	学習講座のデザイン④ 広報のあり方	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	授業内での学習内容および発表と意見交換をもとに、演習課題①の準備を進める。
第23回	学習講座のデザイン⑤ 講座終了後の支援	事前学習	演習課題②として事前配付資料を読み込み、担当者はレジメにまとめ、受講生に報告できるように準備して臨む。
		事後学習	授業内での学習内容および発表と意見交換をもとに、演習課題①の準備を進める。
第24回	学習講座の企画書作成	事前学習	第19回から第23回までの学習内容をふりかえり、演習課題①の準備を進める。
		事後学習	授業内での学習内容および発表と意見交換をもとに、演習課題①の準備を進める。
第25回	受講者の企画した学習講座の持ち寄り	事前学習	演習課題①の成果を提出・発表できるように準備して臨む。
		事後学習	発表と意見交換をもとに、演習課題①をより良い内容に仕上げる。
第26回	受講者の企画した学習講座の内容検討	事前学習	演習課題①を基に、学習支援者として求められる学習方法を検討して臨む。
		事後学習	発表と意見交換をもとに、演習課題①をより良い内容に仕上げる。
第27回	受講者の企画した学習講座の評価	事前学習	演習課題①を基に、学習講座終了後の学習者の学習と活動のあり方を検討して臨む。
		事後学習	発表と意見交換をもとに、演習課題①をより良い内容に仕上げる。
第28回	社会教育人材の裾野の広がり和社会教育士の役割	事前学習	演習課題①を基に、生涯学習を評価する意味と課題、学習支援者が大切にしておきたいことがらを説明できるようにして臨む。
		事後学習	発表と意見交換をもとに、演習課題①をより良い内容に仕上げる。
第29回	学習支援者の力量形成を支えるコミュニティとネットワーク	事前学習	これまでの学習内容をふりかえり、学習支援者としてのキャリア展望を説明できるようにして臨む。
		事後学習	教材をふりかえり、学習支援者としてのキャリアやそこの力量形成の方法、就職のあり方などを説明できるようにする。
第30回	まとめ：受講者一人ひとりの生涯学習デザイン	事前学習	第24回から第28回の意見交換内容を踏まえ、演習課題①の成果を期末レポートとして提出できるように準備して臨む。
		事後学習	受講生相互の講評のもと、この授業で学んできたことをこれからの生活においてどのように生かしていくかを考え、実践する。